

江戸はこうして造られた

江戸の町の河岸機能



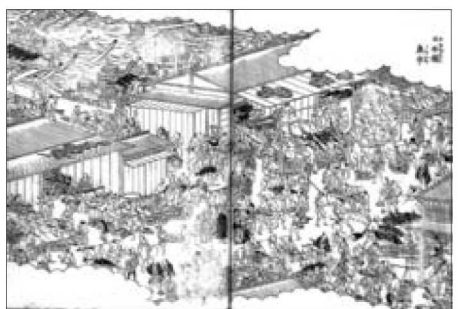
No	河岸名
1	堀留
2	小田河岸
3	鎌倉河岸
4	城辺河岸
5	神楽河岸
6	飯田河岸
7	市兵衛河岸
8	三崎河岸
9	紅梅河岸
10	昌平河岸
11	佐久間河岸
12	鞍地河岸
13	柳原河岸
14	岩井河岸
15	左衛門河岸
16	浅草茅町河岸
17	裏河岸
18	西河岸
19	魚河岸
20	四日市河岸
21	米河岸
22	小舟河岸
23	末広河岸
24	西万河岸
25	東方河岸
26	兜河岸
27	茅場河岸
28	鐘河岸
29	行徳河岸
30	亀島河岸
31	日比谷河岸
32	将監河岸
33	湊河岸
34	北新堀河岸
35	南新堀河岸
36	北新河岸
37	南新河岸
38	福荷河岸
39	越前堀河岸
40	永久河岸
41	蠣殻河岸
42	富蒲河岸
43	材木河岸
44	楓河岸
45	北桜河岸
46	南桜河岸
47	新富河岸
48	白魚河岸
49	竹河岸
50	大根河岸
51	東豊玉河岸
52	西豊玉河岸
53	小田原河岸
54	南飯田河岸
55	船松原河岸
56	東緑河岸
57	西緑河岸
58	浅草茅町河岸
59	新柳河岸
60	元柳河岸
61	浜町河岸
62	尾上河岸
A	芝口河岸
B	屋形河岸
C	方丈河岸
D	方門前一・二丁目河岸
E	北金杉河岸
F	北金杉河岸
G	南金杉河岸
H	本芝材木町河岸
I	新堀河岸
J	赤羽河岸
K	新門前河岸
L	電源寺前物揚場
M	車町河岸
N	町方物揚場

注) 河岸名は、町地の河岸名だけを明治期の行政区画の町名になったものだけを記入。APP「江戸東京重ね地図」に加筆・修正した。

河岸とは、海・河川から運ばれてきた各種の資材・食料・人などを積み下ろす場所のことである。代表的なものに魚河岸があり、これは現在の東京都中央卸売市場築地市場となっている。江戸時代の物流の主役は水運であり、こうした物資を陸上に荷揚げし、流通させる民間の中心基地が河岸であった。河岸と同じ機能を持つものに物揚場があるが、河岸は町人専用、物揚場は武家専用であった。江戸時代の「江戸市中の」河岸の数は、70ほどといわれているが、時代とともに河岸の位置・姿も変わっているため正確な数はわからない。

河岸の名称は、河岸と関連のある地名をもとにするもの、米・大根など取り扱う品物を表すもの、人名（屋敷名）を表すものなどに分類される。図は、鈴木理生著「江戸の川・東京の川」（井上書院1989）の江戸湊の河岸をもとに、江戸絵図上にその位置を示したものである。

こうした河岸の機能は、明治時代も続いたが、物流の中心が、海運・水運から陸運に変わるに従い、河川・堀の埋め立てなどによりその機能を失っていった。



日本橋魚市（「江戸名所図会（原寸復刻）」評論社 1996から転載）